

つちおと

平成30年9月28日発行
宮城復興局気仙沼支所気仙沼市笹が陣3-5
気仙沼市シルバー人材センター内

9/6

土井復興副大臣による訪問 ～ 復興の現場を歩く～



結の里にて施設利用者と談話される土井副大臣



宮城オルレ気仙沼・唐桑コース



気仙沼大島大橋

9月6日、土井副大臣が南三陸町と気仙沼市を訪問しました。南三陸町では、結の里において、高齢者生活支援施設利用者の皆様とふれあうとともに、生活援助員の方々と意見交換を行いました。気仙沼市では、大谷海岸地区、震災遺構、内湾地区、唐桑半島ビジターセンター、気仙沼大島大橋等を視察し、進む復興状況を確認しました。



大谷海岸にて市長から説明を受ける土井副大臣

9/11

復興推進委員会による視察 ～ 確かな復興に向けて～



9月11日、復興推進委員会の秋池委員長代理、白根委員、中田委員が南三陸町を視察されました。委員は、町庁舎、結の里、さんさん商店街等を視察するとともに、県漁協志津川支所では、日本で初めてASC※の認証を取得したカキ養殖の取組について意見交換を行う等、復興施策の実施状況について調査を行いました。

※ASC: Aquaculture Stewardship Council (水産養殖管理協議会)



8/24

気仙沼向洋高校入校舎式 ～ 未来の人材をつくる新校舎 ～

8月24日、気仙沼向洋高校で新校舎への入校舎式が行われました。東日本大震災で旧校舎が被災し、7年半ぶりに階上地区に戻ってきました。新校舎は鉄筋コンクリート4階建ての校舎棟をはじめ、鉄筋2階建ての実習棟や体育館などが整備され、充実した学習・実習環境が整いました。



8/27

さんまの初水揚げ ～ 大型さんま棒受け網漁船が帰ってきた!! ～

8月27日、気仙沼市魚市場でさんまが初水揚げされました。8月17日に気仙沼漁港を出港した大型さんま棒受け網漁船第3大喜丸(長崎県雲仙市199トン)は、今年で5年連続の1番水揚げです。また、9月16日に開催された目黒のさんま祭りには、気仙沼から5,000匹の新鮮なさんまが届けられ、多くの気仙沼・さんまファンが訪れました。



水揚げのため着岸中の第3大喜丸

にぎわう目黒のさんま祭り(9/16)

9/9

あそぼんがオープン ～ 自由に遊べる空間 ～

9月9日、気仙沼市田尻沢地内で、子ども子育て支援拠点「aso-bon(あそぼん)」がオープンしました。同施設は「(一社)プレーワーカーズ」と「子育て支援わくわくけんぬま」が共同で運営し、親子がゆっくり過ごせる屋内と、「子どもの自由な遊び場」をテーマにした庭で思いきり遊べる施設となっています。

初日は約60人の親子が訪れ思い思いに遊びを楽しみました。



～ 進む震災復興【震災遺構 旧気仙沼向洋高校校舎 及び（仮）気仙沼市東日本大震災伝承館】～

旧気仙沼向洋高校の北校舎は東日本大震災時、大規模改修中で平成23年3月中旬に完成する予定でした。震災当日、津波は南校舎4階まで到達し、校舎は被災しましたが、校舎に残っていた教職員、生徒、工事関係者、約210名は全員無事でした。

震災遺構の保存については、平成25年11月、復興庁より「市町ごとに1箇所につき、保存にかかる初期費用を支援する」との方針が発表されました。

それを踏まえ、気仙沼市は、平成27年5月に南校舎を震災遺構として保存することに決定。更に平成29年2月に北校舎も含めた4棟の保存を追加決定しました。



内部公開は南校舎のみで、通路として北校舎の1階廊下が使用されます。北校舎、総合実習棟、生徒会館、屋内運動場の4棟は外部公開のみ、校舎内の被災車両も保存され、南校舎には見学用のエレベータが設置されます。伝承館は鉄骨平屋建てで1,295m²。映像シアターや体験交流ホールその他、展示室や研修室も計画されています。両施設の事業費は復興交付金や災害復旧費が充てられ、約12億円となっております。

昨年供用した三陸沿岸道路岩井崎ICより東方向約3kmに位置しており、十分な駐車場も計画されており、現在の進捗率は50～60%程度です。

苦労した点を気仙沼市震災復興・企画課にお聞きしました。

「後世に伝承するには、ありのままを保存することが重要であり、綺麗にしてしまえば保存意義が薄れる。一方で、壊れた建築物をそのまま保存するのは安全性の確保が難しく、可燃物も散乱していることから防火面でも不安があった。可能な限り現物保存を目指しつつ、かつ安全性等を確保するため、一つ一つ関係機関と細かい調整を行い、ようやくここまで辿り着いた。」とのお話を頂きました。

壊れた構造物を保存する特殊工事であることから、平成29年9月に宮城県建築審査会が開催されております。

これを受けて、気仙沼市では、現在、校舎の保存工事と南・北校舎の間に（仮）東日本大震災伝承館の建築工事を進めており、平成31年3月にオープン予定であります。

なお、この旧気仙沼向洋高校の土地と建物については、宮城県から無償譲渡されております。



9/14(金)

「復興・創生インターン（夏期）」成果報告会

9月14日、気仙沼・南三陸の両ブロックにおいて、平成30年度「復興・創生インターン（夏期）」の成果報告会が開催されました。インターン生は、約1か月間、企業の経営課題に対し、経営者と協働して解決に向け取り組んできました。期間中は地域の人々との交流も経験し、被災地域の魅力に触れる貴重な時間を過ごしました。発表後、企業側から感謝と労いの言葉をいただき笑顔で研修を終えました。研修の経験が今後の活躍につながることを期待されます。



◆支所長コラム

9月に入り暑かった夏からようやく解放され、過ごしやすくなりました。季節の変わり目は体調を崩しやすいので、皆様どうかご自愛ください。さて、2020年東京五輪では、聖火を「復興の火」として東日本大震災の被災地に展示することが計画されておりますが、9月12日にIOCと大会組織委員会より、その日程が示されました。3月12日にギリシャで採火され、20日に東松島市の航空自衛隊松島基地に到着。宮城県での展示は3月20・21日の2日間になるようです。盛り上がってくれることを願います。(吉)

復興関連イベント

各地で開催される復興イベントをご紹介します。

【10月7日(日)】 ひころマルシェ2018秋 ～南三陸町～

南三陸町入谷「ひころの里」で、「おいしい・楽しい・すこやかな暮らしをこの土地で」がモットーのオーガニック志向のマルシェが開催されます。おいしいもの、すてきなものがたくさん並ぶそうです！7回目の今回のテーマは「エネルギー」。太陽光電源のライブステージもあります。南三陸町観光協会HP ⇒ <http://www.m-kankou.jp/access/>

野外のイベントに行くにはちょうどいい気候だね

【10月6日(土)、7日(日)】 気仙沼サンマフェスティバル ～気仙沼市～

今年で7回目を迎える同イベントが気仙沼市波路上瀬向井で開催されます。「気仙沼に足を運ぶきっかけになれば。」という主催者の願いが込められており、今年も入場料無料、炭火焼サンマ無料配布予定です。毎年豪華なアーティストが出演しており、今年の出演アーティストも公式サイトで発表されています！公式サイト ⇒ <http://sanmafes.com/>

涼しくなってきたよ。秋の花が増えてきたよ。



これまでに発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます。

復興庁HP (<http://www.reconstruction.go.jp/>) ⇒ 宮城復興局 ⇒ 気仙沼支所だより「つちおと」

【編集後記】

◆日ごとに冬の足音が聞こえてくる気がする今日この頃。秋、短そうですね…。

「つちおと」発行元(お問い合わせ先)

復興庁 宮城復興局 気仙沼支所
電話 0226-23-5301、FAX 0226-23-5310